

機関番号：12703

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20730115

研究課題名(和文) 戦間期アジアにおける政治情報機関の活動とその実態—国際共産主義運動を対象に

研究課題名(英文) The Activities of the British Political Intelligence Services against the International Communist Movements in Asia in 1920s and 1930s

研究代表者

鬼丸 武士 (ONIMARU TAKESHI)

政策研究大学院大学・政策研究科・助教授

研究者番号：80402824

研究成果の概要(和文)：

本研究では 1920 年代、30 年代に東アジア、東南アジア地域での政治情報機関の活動とその実態を、主にイギリス植民地に設立された政治情報警察による国際共産主義運動に対する取り締まり活動に焦点を当てて研究を実施した。その結果、情報収集は政治運動だけではなく宗教運動や商業活動なども対象に広範に行われていたこと、国際共産主義運動の取り締まりについては帝国領内だけではなくオランダやフランス、アメリカ、中国、日本などとも情報を共有することで対処しようとしていたことなどを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：

This project reveals the activities of the Political Intelligence Services in East and Southeast Asia in 1920s and 1930s, mainly focusing on the British Political Police's activities against the International Communist Movements. The British Political Polices in Singapore and Shanghai were collecting wide range of information from political movements to religious movements and commercial activities. These information were shared not only within the British Empire but also among the Dutch East Indies, the French Indochina, the American Philippines, China and Japan, and utilized for monitoring and policing the International Communist Movements in the region.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：トランスナショナル・イシュー、アジアにおける国際関係史

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は平成 18 年度から 2 年間、科学研究費(若手研究(B))「人の移動をいかに「管理」するのか—東アジアにおける伝統的安全保障の事例研究」によって代表者が実施した研究の延長線上にある。代表者はこれまで 1

920年代、30年代のアジアにおける国際共産主義活動に対するイギリスの対応を、主に帝国各地に設置された政治情報機関と旅券管理制度との間の連携に焦点をあてて研究を実施してきた。そして、1920年代半ばには帝国各地に旅券管理官が派遣され、旅

券と査証を通じた帝国への出入国管理体制が構築されたこと、政治情報機関との間には情報交換を通じた協力体制が存在し、この協力体制は国際共産主義活動の取り締まりに一定の効果を挙げていること、イギリスとフランスやオランダとの間にも一定の協力体制が存在したことなどを明らかにした。しかしアジアにおける国際共産主義運動の取り締まりには、イギリスやフランス、オランダだけではなく、日本やアメリカ、そして中華民国が果たしていた役割も重要であり、この点については2年という研究期間では十分に明らかにすることができなかった。またこの2年間の研究の中で、自治領としての地位を保ち、独自の出入国管理、情報収集活動をおこなっていたオーストラリアが、アジアにおける国際共産主義運動の取締りを考える上で重要であることが判明した。以上のような経緯から、本研究ではイギリスだけではなく、日本、アメリカ、中華民国、オーストラリアによる情報収集活動と、それぞれの間での協力体制を明らかにすることを目的に設定した。

本研究に関連する国内外の研究動向であるが、1920年代、30年代のアジアにおける情報機関の活動に関する研究は、例えばリチャード・オルドリッチによる *Intelligence and the War Against Japan* に代表されるような主に軍事情報に関するものがほとんどであり、国際共産主義運動や革命運動を対象にした政治情報収集に関するものはほとんど存在しない。その中でもアン・フォスターによる1920年代、30年代の東南アジアにおける植民地列強間の警察協力に関する論文“Secret Police Cooperation and the Roots of Anti-Communism in Interwar Southeast Asia” (*The Journal of American-East Asian Relations*.1995)、フレデリック・ウェイクマンの戦間期の上海における警察協力を描いた *Policing Shanghai: 1927-1937*、バン・カー・チュンによる海峡植民地警察高等課の歴史に関する研究 *Absent History: The Untold Story of Special Branch Operations in Singapore 1915-1942* などは非常に参考になる。しかしそのいずれもが警察だけを対象にしており、旅券管理制度についてはまったく取り上げられていない。旅券管理制度についても、移民という観点からなされた研究は非常に多く存在しているが、政治活動家の取締りという観点からの研究はない。したがってアジアにおける政治活動の取締りを政治情報機関と旅券管理制度との連携、そしてイギリス、日本、中華民国、アメリカ、オーストラリアそれぞれの間での協力関係という観点から明らかにしようとする本研究の問題関心は、独創的であると考へた。

## 2. 研究の目的

冷戦終結後、グローバル化が進展し、インターネットに代表される情報通信技術などの進歩により、国境を越えて移動する人・モノ・カネ・情報の量は加速度的に増加している。この増加し続ける移動する人・モノ・カネ・情報の中には、国家や地域の安全にとって好ましくないものも含まれている。2001年の9.11同時多発テロや、東南アジアでのジャマー・イスラミーア (Jemaah Islamiyah) の活動、核技術の流出、北朝鮮によるマカオや中国の銀行を利用したマネー・ロンダリングなどは、この移動する人・モノ・カネ・情報の増加の負の部分の象徴であるといえる。このような治安を脅かす人・モノ・カネ・情報の流れに対して、国家や地域が対処しようとするとき、この流れそのものの実態をつかむことができるかどうか、言い換えれば国家や地域レベル (例えば EU や ASEAN など) での情報収集能力がその成否を分ける重要な鍵となる。

しかしこのような国家や地域の治安を脅かす人・モノ・カネ・情報の流れに対する情報収集能力の重要性は、何も現代に特有のものではない。19世紀半ば以降、蒸気船の定期航路の発達や、海底電信網の整備などのテクノロジーの進歩により、移動する人・モノ・カネ・情報の量は増大し、アジアにおいてはアヘンの密輸や海賊の横行、コレラやペストに代表される伝染病の伝播、国境を越えて広がる宗教運動や革命運動などといった問題にいかにか有効に対処するのかが、国家や植民地、地域において解決すべき大きな課題となった。こういった課題に対して、国家や植民地は、一体どのように対処しようとしたのであろうか。

本研究は1920年代、30年代のアジアにおいて、イギリス、そしてその自治領であるオーストラリア、日本、アメリカ、中華民国が、自らの安全を脅かす政治的な革命運動に対して、(1) いかなる情報を、どのような政治情報機関をつかっていかにして収集し、その情報を旅券管理制度や警察等による取締りに活用したのか、(2) これらの植民地や国家の間で、情報の共有や取締りをめぐってどの程度の協力関係が存在していたのかを、1919年にモスクワで設立された第3インターナショナル、通称コミンテルン (Comintern) によって主導された国際共産主義運動を対象に明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

研究は公文書館での文献資料調査、先行研究や公刊資料の収集、収集した文献資料の分析を通じて実施した。研究期間内に調査をお

こなつた公文書館は、イギリスの国立資料館（ロンドン）、台湾の国史館（台北）、フランスの外事資料館（エクス・アン・プロバンス）である。

#### 4. 研究成果

本研究から得られた成果としては、まず東南アジア地域における政治情報収集活動について、イギリス海峡植民地、特にシンガポールで政治情報警察がどのような経緯で成立し、その活動はいかなるものであったのかを明らかにした。具体的にはシンガポールの政治情報警察はインド帝国で 19 世紀末に採用されていたシステムをモデルに 1919 年に設立され、インドのナショナリズム運動、汎イスラム主義運動、共産主義運動、中国の政治運動、日本の東南アジア地域での商業活動など、様々な活動をターゲットに情報収集をおこなっていた。これらの情報は、イギリス本国の政治情報機関や、帝国内の領事館、政治情報機関の間で回覧・共有されただけではなく、オランダ領東インドやフランス領インドシナ、アメリカ領フィリピンとの間で状況に応じて共有され、共産主義運動の監視・取り締まりに活用された。英領マラヤ内での共産主義運動については、主に政治情報警察が運動の内部に送り込んだエージェントからの情報を活用して、極めて効果的に取り締まりが実施されていたこと、その一方で、外から浸透して紅葉とする活動家に対する監視・取り締まりはそこまで効果的にはおこなうことができなかつたことなどを明らかにした。

次に、東アジア地域、東南アジア地域における国際共産主義運動の取り締まりがどのようにしておこなわれたのかを、上海の国際共同租界警察内に設置された政治情報警察（高等課）の活動と、中国や日本、アメリカ、オランダ、フランスなどとの協力関係に焦点を当てて研究をおこなつた。その成果として、上海工部局警察高等課が収集した情報は、在上海領事館からの問い合わせなどに応じて、オランダやフランス、アメリカ、中国、日本との間で共有されていたこと、また日本の海上警察や上海のフランス公界、華界の政治警察組織との間でも情報の交換・共有がおこなわれていたことなどが、明らかになってきた。回覧・共有されていた情報がどの程度実際の取り締まりに活用されたのかについては、現段階では少なくともイギリス帝国内での運動の取り締まりに活用されていたことが分かつたが、オランダやフランス、アメリカ、中国、日本がどのように活用したのかについては引き続き検討が必要である。

以上の成果は『歴史学研究』に論文として公表したほか、英文編著の中の一章やオックスフォード大学で開催された国際ワークシ

ョップでの報告を通じて国際的にも発信をおこなつた。また現在、最終成果としての単著（書籍工房早山から出版予定）を執筆中である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- ① 鬼丸武士. 「戦間期英領マラヤにおける政治情報機関の成立とその活動」『歴史学研究』860 号「特集 近代警察像の再検討（I）」、36-46 頁. 2009 年 11 月、査読無.

〔学会発表〕（計 4 件）

- ① Takeshi ONIMARU. “Identifying ‘Agents’ in Asia: The Political Intelligence Services, the Passport Control System, and the Communist International in Asia in the 1920s and 1930s”, Public Conference: “Identifying the Person: Past, Present, and Future”, at St Antony’s College, University of Oxford, September 2009.
- ② Takeshi ONIMARU. “Shanghai Connection: The Communist Network in East and Southeast Asia in the 1920s and 1930s”, The 33rd Southeast Asia Seminar on “Region” and Regional Perspectives on/from Southeast Asia, at Center for Southeast Asia Studies, Kyoto University, August 2009.
- ③ Takeshi ONIMARU. “Shanghai: The Regional Centre of the Communist Network in East and Southeast Asia in the 1920s and 1930s”, The First Congress of the Asian Association of World Historians (Osaka), Session “Colonial and Imperial Cities in the 19th and 20th Centuries: Approaches from the “Peripheries””, May 2009.
- ④ 鬼丸武士. 「地下活動の場としての「魔都」—戦間期、上海での政治運動—」、大阪大学 GCOE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」公開ワークショップ『帝国の時代の都市と植民地—「周縁」から考える—』（大阪）、2009 年 1 月.

〔図書〕（計 1 件）

- ① Takeshi ONIMARU. “Living “Underground” in Shanghai: Noulens and the Shanghai Comintern Network,” in *Traveling Nation-Makers:*

*Transnational Flows and Movements in the Making of Modern Southeast Asia*, edited by Caroline S. Hau and Kasian Tejapira, National University of Singapore Press: Singapore, pp. 96-125 (総ページ数 310), 2010年3月、査読有.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鬼丸 武士 (Takeshi ONIMARU)  
政策研究大学院大学・政策研究科・助教授  
研究者番号：80402824

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：